

独立行政法人日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター核燃料サイクル工学研究所 再処理施設(2007年度第4 四半期)

測定対象	採取		測定		測定値			*比較対照区域 最小~最大	備考	平常の変動幅(注3) 最小~最大
	採取点	頻度	対象	頻度	対象	最小~最大	単位			
海水	放出口付近 5点 (5点混合試料について測定)	1回/3か月	全放射能 ³ H	1回/3か月	全放射能 ³ H	ND ND ND	Bq/L	北約20km点は 第2四半期報告済。	ND ND ND	
	久慈沖及び磯崎沖 2点 北約20km点 1点*	1回/6か月	全放射能 ³ H	1回/6か月	全放射能 ³ H	ND ND	Bq/L	第2四半期報告済。	ND ND	
海底土	放出口付近 5点 (5点混合試料について測定)	1回/年	核種分析	1回/年	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	ND ND ND ND ND ND	Bq/kg・乾	第1四半期 第3四 半期報告済。	ND~0.13 ND ND ND ND ND	
	久慈沖及び磯崎沖 2点 北約20km点 1点*	1回/6か月	核種分析	1回/6か月	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	ND ND ND ND ND ND	Bq/kg・乾	第1四半期 第3四 半期報告済。	ND~0.13 ND ND ND ND ND	
海産生物	シラス 東海村地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	ND ND ND 0.075 ND ND	Bq/kg・生		ND ND ND ND~0.11 ND ND	
	カレイ又は ヒラメ 東海村地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	ND ND ND 0.055 ND ND	Bq/kg・生	対象:カレイ	ND ND ND 0.044~0.14 ND ND	
	貝類 久慈浜地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	ND ND ND ND ND ND	Bq/kg・生	久慈浜地先は採取 不能。 約10km以遠の対 象:ハマグリ	ND ND ND ND ND ND	
	褐藻類 (ワカメ又は ヒジキ等) 久慈浜地先 1点 磯崎地先 1点 約10km以遠 1点*	1回/3か月	核種分析	1回/3か月	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	0.029, 0.030 ND ND ND, 0.041 ND 0.0025, 0.0033	Bq/kg・生	対象:アラメ	ND ND ND ND ND ND	
魚網	東海村地先において曳航の魚網	1回/3か月	吸収線量 表面線量	1回/3か月	線 線	ND ND	nGv/h nGy/h		ND ND	
船体	甲板	1回/3か月	吸収線量 表面線量	1回/3か月	線 線	ND ND	nGy/h nGy/h		ND ND	
海岸水	久慈浜海岸 1点	1回/6か月	全放射能 ³ H	1回/6か月	全放射能 ³ H	ND ND	Bq/L	第1四半期 第3四 半期報告済。	ND~0.085 ND	
	阿字ヶ浦海岸 1点 南北約20km点 各1点*	1回/6か月	核種分析	1回/年	⁹⁰ Sr ¹⁰⁶ Ru ¹³⁴ Cs ¹³⁷ Cs ¹⁴⁴ Ce ^{239,240} Pu	ND ND ND ND ND ND	Bq/L	第3四半期報告 済。	ND~0.0021 ND ND ND ND ND	
海岸砂	久慈浜海岸 1点 阿字ヶ浦海岸 1点 南北約20km点 各1点*	1回/3か月	表面線量	1回/3か月	線 線	65, 83 27, 43	min ⁻¹ nGy/h	71 36, 38	52~86 27~52	

(注1) ND: 定量下限値未満を示す。

(注2) *: 比較対照区域を示す。

(注3) 平常の変動幅は、1997年度~2006年度までの過去10年間の変動幅である。

(注4) 平常の変動幅は、2004年度~2006年度までの過去3年間の変動幅である。

(注4)

独立行政法人日本原子力研究開発機構 東海研究開発センター核燃料サイクル工学研究所 再処理施設(2007年度第4四半期)

測定対象	採取		測定		測定値			*比較対照区域	備考	平常の変動幅(注3)	
	採取点	頻度	対象	頻度	対象	最小~最大	単位	最小~最大		最小~最大(注4)	
空間放射線	線量率	周辺監視区域内 9点 周辺監視区域外 3点	連続	γ線	連続	γ線	36~46	nGy/h	32~33	モニタリングポスト8基 33~46 (42±9)	
	積算線量(TLD)	周辺監視区域内 15点 周辺監視区域外 25点	連続	γ線	1回/3か月	γ線	32~36	μGy/91日	50~100	モニタリングステーション4基 31~37 (33±5)	
空気	浮遊じん	周辺監視区域内 3点 周辺監視区域外 4点	連続	全α放射能 全β放射能	1回/週	全α放射能 全β放射能	0.028~0.061 ND~0.74	mBq/m ³	0.031~0.061 ND	ND~0.088 ND~0.93	
	ヨウ素	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	連続	核種分析	1回/3か月	⁹⁰ Sr ¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu	ND ND ND	mBq/m ³	ND ND ND	ND ND ND	
		気体状ベータ放射能濃度	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	連続	¹³¹ I	1回/週	¹³¹ I	ND	kBq/m ³	ND	ND
		水分中 ³ H	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 2点	連続	⁸⁵ Kr	連続	⁸⁵ Kr	ND	Bq/L	ND	ND~6.9
雨水	周辺監視区域内 1点	連続	³ H	1回/月	³ H	ND	Bq/L	ND	ND~4.8		
降下じん	周辺監視区域内 1点	連続	全β放射能	1回/月	全β放射能	6.1~10	Bq/m ²	ND	ND~65		
飲料水	周辺監視区域内 1点 周辺監視区域外 3点	1回/3か月	全β放射能 ³ H	1回/3か月	全β放射能 ³ H	0.047~0.050 ND	Bq/L	0.058 ND	ND~0.090 ND		
葉菜	周辺監視区域外 3点	1回/3か月	核種分析	1回/年	¹³¹ I	1回/3か月	¹³¹ I	ND	Bq/kg・生	ND	対象:白菜, ホウレン草 ND
					⁹⁰ Sr ¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu	1回/年	⁹⁰ Sr ¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu	ND ND ND	Bq/kg・生	ND ND ND	第3四半期報告済。 ND ND
精米	周辺監視区域外 3点	1回/年	¹⁴ C ⁹⁰ Sr	1回/年	¹⁴ C ⁹⁰ Sr	ND ND	Bq/g・炭素 Bq/kg・生	ND ND	第3四半期報告済。 0.23~0.27 ND		
牛乳	周辺監視区域外 2点	1回/3か月	¹³¹ I ⁹⁰ Sr	1回/3か月 1回/年	¹³¹ I ⁹⁰ Sr	ND ND	Bq/L・生	ND ND	第3四半期報告済。 ND~0.034		
表土	周辺監視区域内 2点 周辺監視区域外 3点	1回/年	核種分析	1回/年	⁹⁰ Sr ¹³⁷ Cs ^{239,240} Pu	ND ND ND	Bq/kg・乾	ND ND ND	第3四半期報告済。 ND~6.1 2.8~36 0.058~1.2		
河川水	新川 3点 久慈川上流 1点*	1回/6か月	全β放射能 ³ H	1回/6か月	全β放射能 ³ H	ND ND	Bq/L	ND ND	第1四半期、第3四半期報告済。 ND~0.21 ND		
河底土	新川 3点 久慈川上流 1点*	1回/6か月	全β放射能	1回/6か月	全β放射能	ND	Bq/kg・乾	ND	第1四半期、第3四半期報告済。 450~720		

(注1) ND: 定量下限値未満を示す。

(注2) *: 比較対照区域を示す。

(注3) 平常の変動幅は、空間放射線については2004年度~2006年度までの過去3年間、その他の測定対象については1997年度~2006年度までの過去10年間の変動幅である。但し、積算線量については、測定地点S-4が周辺監視区域内の施設近傍であることから、自然放射線の変動に近傍施設の寄与が附加されたものと評価されたため、同地点の2005年10月~12月までの期間を除いた。また、空気中ヨウ素については、1999年9月30日に発生したJCO東海事業所の臨界事故の影響が見られた。

(注4) 平常の変動幅の空間放射線については、上段の数値は最小~最大を、下段の()数値は平均±3σを表す。また、その他の測定対象については最小~最大を表す。